南の国のナデシコ税理士

成功へのキセキ

第38回 司法試験合格までの道のり～ムスコの場合

おかげ様で、ムスコが無事に司法試験に合格しました。

お世話になった皆さま、ありがとうございました。この場を借りて、御礼を申し上げます。それにしても、長かった子育てが本当の意味でようやく終わった気がします。

獣医学部を卒業したものの、訳あって獣医を諦め、司法試験を受けることに。

大学６年生の年は、卒業論文、獣医師国家試験に加えて法科大学院の受験と、わがムスコながらよく頑張ったと思います。

獣医になりたいと言いだしたのは、高校１年生の時でした。可愛がっていた犬が、原因不明のまま突然に死んでしまったのがきっかけです。

それまでの成績は、中の中。競争心がないというか、頑張っていい成績を取るのはかっこ悪いとでも思っているのか、とにかくホドホドが一番という、今どきゆとり世代の典型のようなコドモでした。

担任の先生からも「原くんは能力はあるのに、もったいないねー」と、中学１年の時から三者面談の度に、枕詞のように言われ続けて４年。とても、とても獣医学部に入れるような成績ではありませんでしたが、一念発起、目標が決まってからはガムシャラに勉強するようになったのです。

中学入学と同時に、我が家にやって来て、たった３年半でこの世を去った愛犬は、コドモをやる気にさせるための神様からのお使いだったのではないかと思えるほどの変わり様でした。

そして大学受験。ムスコは、死んだ愛犬の形見の「毛束」をカバンに入れて、試験に挑みました。第一志望だった都内の大学は受かりませんでしたが、北海道の大学に合格。浪人をして第一志望の大学に再チャレンジするか、現役で北海道に行くか、親子で悩みましたが、結論は北海道への進学。ムスコが行きたいのは獣医学部であって、それなら大学名に拘らなくてもいいんじゃないかというのが理由です。

18歳で遠く離れてしまうムスコのことが心配でもあり、淋しくもあり、行かないで～と、心は叫んでいましたが、グッとこらえて口には決して出しませんでした。

余談ですが、ムスコが居なくなってからの1年間は、まさにムスコロス。中学・高校の６年間、毎日お弁当を作っていたせいか、スーパーのお弁当箱売場を歩くだけで涙がハラハラと出る始末です（笑）。

さて、念願叶い獣医学部に行ったムスコは、牛の解剖やマウスの実験など、イキイキと大学生活を楽しんでいるようで、安心していたのですが、ここで問題が持ち上がりました。アレルギーです。

１年生の時から、臨床経験をさせてもらえる大学だったので、毎日、牛のお尻に手を突っ込んで検査などをしているうちに、発疹が出たり、痒くなったりするようになったようです。

赤ん坊の時に軽いアトピーはあったのですが、野菜中心の食事に変えたらすっかり治っていたので、私も気にしていなかったのですが…。

そして５年生の時に、決定的な発作が起きてしまいました。牧場実習です。これは、大学が提携している牧場に２週間ほど寝泊まりして、牛の世話など酪農家のお手伝いをするというカリキュラムです。ハイジのように牛舎の２階に寝泊まりしているうちに、牛や馬の体毛、干し草に反応したのか、咳が止まらなくなり、救急車を呼ぶ騒ぎになったようなのです。

５年生の秋には進路を決めて、大学に提出しなくてはなりません。この時点で、ムスコは獣医になるのは、諦めていました。

私も知らなかったのですが、獣医学部を出たからと言って、皆が獣医になるわけではありません。卒業後の進路は、半分くらいが会社員や公務員、研究職なのです。獣医でなければ扱えない薬剤や検査薬があるので、企業の開発室や公的な検査機関など、獣医の就職先は多岐にわたります。

「ぼくは、サラリーマンにはなりたくないんだよね。」

両親を見て育っているから、普通の会社勤めはしたくないと。それならば、何か資格を取るしかありません。けれどこの時点で、父親の職業である公認会計士や、母親の職業である税理士を受験するという選択肢は、ムスコの中にはなかったようです。

◆筆者 原 尚美（はら なおみ）プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練（現：全国公開模試）「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』（いずれもソーテック社）、『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方（日本実業出版社）』『トコトンわかる株式会社のつくり方（新星出版社）』『世界一ラクにできる確定申告（技術評論社）』『一生食っていくための士業の営業術（中経出版）』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

私も、ムスコがそう言いだしたら反対しようと思っていました。

資格を取る。公認会計士でもなく、税理士でもなく…。

弁護士というカードを、彼の前にそっと置いたのは私です。けれど数ある選択肢の中から、それを拾い上げたのは、もちろんムスコです。

合格発表のあと、ムスコに聞いてみました。

「司法試験の勉強してるとき、途中でやめたいと思ったことはないの？」

「毎日、思ってたよ。毎朝、辛かったよ」

え！？そうなの？

「勉強しろって、誰かに強制されるわけじゃないし。サボったって、誰かに怒られるわけじゃないし。それ、キツかったよ」

どうやって、乗り越えたの？

「だって、もう後戻りできないじゃん。自分でやるって決めたことだし…。親に学費を出してもらってるし」

確かに、中だるみしてる時期もあったよね…。

「お母さん、何も言わなかったからね。もしお母さんから、非難めいたことを言われたら、その場でやめてたかもしれない」

ええええ～

ついつい、一言いいたくなるのを、ガマンしてよかった（ホッ）。

ムスコの場合は、ずっと理系畑で勉強や実験をしてきたため、文化系の思考方法に馴染むのに、とても苦労したようです。とくに論文の点数が取れず、直前模試の成績も絶望的。

たとえば刑法を例にとると、択一の成績は良くて、コメント欄も「知識は十分です」となっているのに、同じ刑法の論文の成績は下の下のまた下。コメント欄には、「知識が不足している」と書かれる始末。

「これ、どういうことかな？」

「要するに、持っている知識を文章で表現する能力がないということじゃないの？」

この時点で、本試験まで残り１ヶ月。ムスコは模範解答を丸暗記し、論文構成を身体に覚えこませるという訓練をしたようです。

待つこと４ヶ月。努力の甲斐あって、司法試験に無事に合格することができました。試験に受かったからといって、バラ色の将来が約束されているとは限りません。資格は、単なる入口にすぎないのは、拙著『一生食っていくための「士業」の営業術』でも、述べているとおりです。

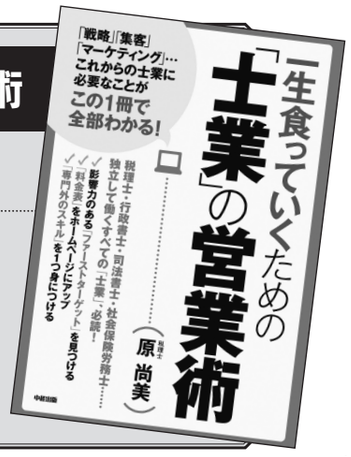
ムスコの人生は、まだまだこれから。それでも、資格を取らなければ、スタート台にたつこともできません。資格試験は、ビリでもいいから、合格することが大切なのです。

このエッセイを読んでいる皆さんの参考になればと、ムスコの許可を得ずに、いろいろと書かせていただきました（汗）。

勉強中の皆さん。必ず、努力は報われるので、自分を信じて、頑張ってくださいね！

好評発売中

一生食っていくための「士業」の営業術

原 尚美 著（中経出版）　1,500円+税

カネなし。客なし。コネなし。
開業と同時に出産したため、普通の新人ならたっぷりあるはずの、時間もなし。
文字通りゼロからスタートした会計事務所を、女性だけのスタッフ22名の規模にまで成長させたノウハウについて書いた本です。
特別なスキルもコネも持たない、すべての平凡な個人事業者に、ビジネス拡大のヒントが満載です。